

「桜峰小学校の鎌踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立桜峰小学校

2 学年・人数

5・6年生及び中学生（鹿児島市立桜島中学校）（計12人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年5月 桜峰小学校体育館
令和元年5月9日（木）運動会前の練習

（2）発表の日時・場所

令和元年5月19日（日） 桜峰小学校幼稚園合同運動会
令和元年10月13日（日） 桜島地域大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

（1）名称

鎌踊り（かまおどり）

（2）由来

1600年（慶長5年）関ヶ原の戦いに敗れた島津氏第17代義弘公が、郷土の士気を鼓舞すると共に、緊急の場合にはいつでも郷土を自らの力で守ることができるように、踊りの中に武芸の技を加えて踊らせたのが始まりとされる。また、五穀豊穰を祈願して踊られるとも伝えられている。

（3）構成等

6人一組で踊り、前後に3尺棒の踊り手が4人、真ん中に鎌棒の踊り手が2人という組み合わせで鎌踊りの歌に合わせて演舞する。令和元年度の5・6年生は男女合わせて8人だったため、桜峰小学校卒業生で桜島中学校の生徒4人を含めた構成で2組作った。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年5月の小学校運動会においてこの「鎌踊り」を伝承・披露するために、松浦集落の「鎌踊り保存会」の方々に学校に来ていただいて、児童への細かい指導をお願いしている。保存会の方々に鎌踊りの歌を歌っていただき、歌に合わせて練習をする。また、鎌踊りでは鉢巻きや襷掛け、腰ひもを身に付けるが、独特の結び方をするために、保存会の方々に結び方を教わっている。棒の振り方や顔の向き、掛け声まで細かく丁寧に御指導していただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

保存会の方々が伝承している「鎌踊り」の形が、大人の男性による勇ましい踊りであり、使用する鎌に似た棒なども、児童が使用するには危険が想定されるので、単に3尺棒のみの使用にとどめるとともに、踊りの内容も児童が踊りやすいように少し変更しつつ、歌に合うような工夫を行っている。また、装束やすね当てを貸していただいて、勇ましが伝わるようになった。

7 取組の様子

初めて鎌踊りに取り組む5年生も、5・6年生の伝承が続いていることを知っており心構えができています。低学年の頃から目にしているためにすぐに振りを覚え、6年生が個別に細かい点の修正を加えていくことでほぼ踊ることができるようになります。小学校の運動会で毎年披露するが、装束への着替えに時間を要するため、プログラム順を午後一番目とし、昼食を終えた子どもから着替えたり、保存会の方による本番前の指導をいただいたりすることができるようにした。

また、秋の地域大運動会における鎌踊りの披露では、児童生徒12人による演舞は人数が少ないため、鎌踊り保存会の方々自身も事前に練習をされ、当日児童生徒と一緒に演舞を披露した年もあった。



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【参加児童生徒】

- 見てくださっている方々から拍手をもらってうれしかった。
- 鉢巻きや襷の結び方が難しくて、うまく結べなかったけど、優しく教えてくださった
- たくさん人の前で恥ずかしかったけど楽しかった。鎌の代わりに棒を使う踊りを今まで見たことがなくてそんな鎌踊りを踊れてうれしかった。

【教職員】

- 子どもたちが郷土の伝統文化を伝承し、地域の人たちの前で披露する活動はとても尊いと思う。地域で育つ子どもたちの心に長く残り、将来にわたって地域への感謝と誇りを忘れないと思う。

【保存会】

- 郷土に伝わる鎌踊りを小学生が覚えて地域住民の前で踊ってくれることを有難く、また頼もしく感じている。若い人たちが伝承を続け、未来に伝えていってくれることを願っている。